

■コメント

1. 新型コロナウイルス感染症

第9週に合計15件の報告がありました。また、3月9日現在、広島市では変異株PCR検査陽性が13件確認されています(このうち7件は、英国において報告された変異株であると確定)。

新型コロナウイルス変異株は、地域で広く流行している状況ではないものの、感染力が従来よりも強い可能性があり、注意が必要です。変異株であっても、これまで同様に基本的な感染対策が有効です。健康管理に注意し、「3密」の回避、マスク着用や手洗いなどの感染対策をより一層徹底しましょう。また、発熱や咳などの症状があるときは、仕事や学校を休み、かかりつけ医やコールセンター(積極ガードダイヤル)TEL:082-241-4566 に連絡・相談しましょう。

【参考】新型コロナウイルス感染症に関する情報／3月9日 記者発表資料より(広島市)

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/186948.html>

2. 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

今年初めて1件報告されました。(次頁参照)

3. 感染性胃腸炎

定点当たり5.71人の報告があり、前週(4.88人)と比べてやや増加しました。広島県内では、ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生が増加しており、注意が必要です。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理など感染対策を徹底しましょう。

【参考】ノロウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	-	-	14.22		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.19	
小児科	咽頭結膜熱	4	0.17	0.26		眼科	RSウイルス感染症	1	0.04	0.47	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.54	2.83		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	137	5.71	7.29		眼科	流行性角結膜炎	4	0.50	0.45	
	水痘	1	0.04	0.36		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	3	0.13	0.10		基幹	無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.57		基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.23	
	突発性発しん	6	0.25	0.29		基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	4	0.17	0.06		基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.97	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	18	50歳代、70歳代
4	重症熱性血小板減少症候群	1	1	70歳代
4	レジオネラ症	1	5	80歳代
5	急性脳炎	1	1	10歳未満
5	梅毒	2	7	20歳代、60歳代

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶血性 球菌咽頭 炎	感染性胃 腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウィ ルス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎	(ロタウ イルス) 感染性 胃腸炎
報告数	広島市	第5週	3	6	16	88	-	2	-	5	5	-	-	-	2	-	-	-	-	-
		第6週	-	2	22	102	1	4	-	5	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-
		第7週	1	3	13	71	2	2	-	8	1	-	-	-	2	1	-	-	-	-
		第8週	-	3	10	117	6	-	-	11	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
		第9週	-	4	13	137	1	3	-	6	4	-	1	-	4	-	-	-	-	-
定点 当たり	広島市	第5週	0.08	0.25	0.67	3.67	-	0.08	-	0.21	0.21	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-
		第6週	-	0.08	0.92	4.25	0.04	0.17	-	0.21	0.08	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-
		第7週	0.03	0.13	0.54	2.96	0.08	0.08	-	0.33	0.04	-	-	-	0.25	0.14	-	-	-	-
		第8週	-	0.13	0.42	4.88	0.25	-	-	0.46	0.04	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-
		第9週	-	0.17	0.54	5.71	0.04	0.13	-	0.25	0.17	-	0.04	-	0.50	-	-	-	-	-
	全国	第7週	0.01	0.20	0.73	2.79	0.11	0.03	0.02	0.35	0.02	0.03	0.33	-	0.19	0.01	0.02	0.03	-	0.01
		第8週	0.01	0.16	0.67	2.54	0.10	0.03	0.01	0.34	0.02	0.02	0.41	-	0.16	0.02	0.02	0.03	-	0.01

■広島市における新型コロナウイルス感染症の発生状況(確定日で集計)

【第9週(3月1日～3月7日)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	計
1	1	-	1	2	2	2	2	4	-	15

【累計報告数(3月7日現在)】 ※2020年からの累計報告数です。

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	計
94	163	560	484	494	496	330	322	275	67	3,285

* 新型コロナウイルス感染症に関する最新の発生状況、相談窓口等については、広島市ホームページ「新型コロナウイルス感染症に関する情報(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/>)」からご確認ください。

【参考】ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう！

-重症熱性血小板減少症候群(SFTS)／つつが虫病／日本紅斑熱-

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。潜伏期間は5日～2週間程度で、主な症状は発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)です。患者の多くは、西日本を中心に、マダニの活動が盛んな春から秋にかけて発生しています。SFTSの他、つつが虫病や日本紅斑熱も、ダニ類が媒介する感染症です。これらの感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

【ダニ類に咬まれないためのポイント】

- ・山や草むらに入るときは、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用するなど、肌の露出を少なくする。
- ・屋外活動後は入浴し、ダニ類が付着していないかチェックする。

【ダニ類に咬まれたときの対処法】

- ・ダニ類が吸着していた場合は、無理に引き抜こうとせず、皮膚科を受診し、除去してもらう。
- ・発熱等の症状が出た場合は、早めに医療機関を受診する。

【参考】重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に関するQ&A(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html



フタトゲチマダニ
国立感染症研究所
昆虫医科学部



山や草むらに入るとき
の服装

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
URL <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp